



附 蜀  
三國力共始  
全

8  
3869  
82



利 3942 16

3869 82

正七 室平藏 氏

和

永田文庫

夫のふまう玉魚の... 物等... 業と種... 干

有孫田一...

也以医...



附言

蓋啓卷又と冊よ好とを祖  
先後と事よとといふと  
亦不無と夷よりそは先後  
次第は定む只法義先  
此如のく 是詳あつて  
代志と夷冊よ記とるそは  
多分統く 先生とそは先  
事可謂定ありと最是也  
先後注事孝子戸丸社友  
とありて考ふは如く

志く加清正とありて  
記ふと云く

干時文化十三年 丙子春正月下旬

高陽藩

梅林亭露州

叙

河枚驛

東淵舎に丸

集



元をいほ「子休の妻雲峯唐一升  
 いほよの娘を連て来々後妻志賀  
 おやうに片寄て居る百の安里東  
 ひかりをた津世少路の花舞く  
 月をよの質の流た運居士  
 理より不孝かある父も武士  
 病下平の情て見る眼も百醉  
 おやうに氏の流さる結さる  
 おやうに冥よかる子れ結よ  
 理より父もねる伯父の輝  
 志し「ア銀へつるる大切さ  
 おやうに破魔弓やうて度武士

全 是幸 兵水 花笑 駒山 文花 全

元をいほ「手是の世に絶ぬ年  
 けりきた 去る貴もを待た女  
 志し「ア紋を方へ貴川矣を  
 くるをよまふ級て見る井戸後  
 不性ぐよ苦のれ世子を三度愛  
 おやうに火の原てゆる結さる  
 元をいほ「下戸の結さるいそ  
 夕のりよま宿の栗り抱ある  
 到「イ「かんはし度ス小け女  
 不性ぐよ咽と葉漢ふね病  
 けりよま結年にかる葉門  
 おやうよ結年にかる葉門

全 谷遊 車端 桃李 鬼丸 桃李 冢子丸 一丸 全 泉山 希蝶 一管 冢子丸

ほろびく 新代と拂病後 治 一丸  
 志しアア 不和もきて 人 全  
 理より 妻務味 振る 雲信 四季丸  
 元きのは 紙のそけて 形 大忠  
 したて 子と 命と 命と 世に 何丸  
 おがやうに 大更て 年と 志賀  
 よかろうの 今と 命と 仲人 泉山  
 心とよ 命と 命と 揚る 希蝶  
 ぶねぐよ 名月の 羊と 大忠  
 けあそよ 地膚 喘めり 久菴  
 心性くよ 粒と 老女 耳二  
 られた 命と 命と 命と 卷遊

おがやうに 命と 命と 命と 車蟻  
 元きいほ 命と 命と 物と 希蝶  
 おがやうに 命と 命と 命と 快風  
 けあそよ 命と 命と 命と 全  
 全 抱き 命と 命と 四季丸  
 命と 命と 命と 命と 一管  
 命と 命と 命と 命と 卷遊  
 志しアア 命と 命と 命と 文花  
 命と 命と 命と 命と 一丸  
 おがやうに 命と 命と 命と 卷遊  
 命と 命と 命と 命と 久菴  
 おがやうに 命と 命と 命と 耳二

志しアア 車座の席出る猿  
 不情ぐよ 只中よよに机拂ふ 一声  
 泣くもく 妹のあまの男たて  
 ちてやれ 盈れし陰系中女座  
 ちやん 流る子面の役老之 一力  
 ついもく 嬉む客にうらむ 米谷  
 ちやん 謎いよけても解ぬ狗 是幸  
 けやうそよ 余の抱て温泉野 下丸  
 別イテく おりり書流し掌以 四掌丸  
 不情ぐよ 又女よ出さぬおを 一洗  
 ついもく 又女分の事さあ 下丸  
 新巻のほ 書へ信食流さ下戸 桃李

ちてやの 眼と飯と喰ふたる 西翁  
 ちやん 悟亮せぬお板合 一力  
 ちやん 水垢きつう香後赤 生女  
 ちやん 喪衣を著る婿の親 大忠  
 ついもく ぶらぶらと去敷は美云子 一力  
 ついもく 縁りよちんて板付彫 止孝  
 ちやん いか名おしん公家の左 駒山  
 ちやん ちやん 武士も藤と中徳し 茂六  
 ちやん ちやん 画を巻て鼻を絵画 一力  
 ちやん ちやん 達れ人よ下を愛 寐覚  
 ちやん ちやん 今更野地よ迷子 金瓶  
 別イテく 移る巻お建がけの妻 一力



野やうに 狩養と後入 甲子之 龍門  
 上あらかの 齋屋を対岸 改めら 人形  
 野小南り 各をわ 借る 後十町 茂六  
 不性ぐよ 陶りと 掘て出 女房 是幸  
 志しアア 幼南の 日建 娘ノ母 其達  
 元をいほ 入鼻て 突安お 山 永樂  
 おじやうに 志しノ 軍函て 孫あ 東冥  
 到イニク 曲掃通らぬ 角力え 渡月  
 つるもく 否か 役えん たりま 役 一力  
 けあうまよ 送う 火とん 心 鏡の 子 桃李  
 いそよよ 深遠い 志し 幸の 時 桃李  
 おうしん 小ドア 上り とうる 合 運出 桃李

たるやの 隣う 来る 沖心 泉山  
 おじやうに 車の中 さら 後の 夫 西前  
 上あらかの モウ 漕ち した 月 松 十七梅  
 免をいほ 町を 寐て 居る 志し 系 松樂  
 おじやうに 霍も 輪と 志し 夫の 志し 九裸

鳥居堂東志撰

志し 志し 妻 結 食 強 志し 下 戸 桃李  
 志し ア 眼 お 志し 志し 志し 志し 久 卷  
 志し 志し 志し 志し 志し 志し 志し 止 孝  
 志し 志し 志し 志し 志し 志し 志し 志し 泉 山  
 志し 志し 志し 志し 志し 志し 志し 志し 田 志  
 志し 志し 志し 志し 志し 志し 志し 志し 関 水



ほろろく 櫻よはしく 志野丹 鬼丸

よからがの 友は猿佩 見せる父 卷笑

うたてやの へばれは 焙茶巾 女房

氣さひは 十あつきの 後か人形 十七梅

ふねくよ 百三の 糸掃 漆もろ 石女

けりよま 大正を 取をふら 茶室 奇壽

全 女うん 送る 藤崎もろ 其山

あつうい おの女 こと 字の 毒士 墨守丸

りそよふ 書して 居る 生座 兵水

せやうに 廿三の ぬまの ねいふ 卷笑

あまひは 暁の 赤まを 親ふ 戸 何丸

ふたてやの 茶室を 取る 又 厚森 南飛

つひろく 入流 藤子に 泣 賢中 卷遊

全 且ねの 借よ 泣か 人 一力

全 片着の けろく 中 世 何丸

割いそく 女房と 町を 掃き けい 立卷

きりーア 政次の すとろ 戸 柳 賞 何丸

あつうい 筆を 丁 鬼を 掃く 世 烏丸

おたやうの へばれは 出れ けい 渡月

あまひは 海の 船 風を けい 泉山

割いそく 子ぶ 赤まを 村を 掃き 西翁

あつうい 山月の 輝 燈を 掃き 何丸 文卷

あまひは のまの 掃き けい 何丸 希蝶

あまひは 暁の 掃き けい 何丸 金瓶

ぶつそよふ 碓町うすまち 遊あそびまよふ 好山葵こうざんあひ けり丸  
 ちりーデしりい 名乗なのもはせとて 兵衛べゑ 南なん 飛と  
 ちりーい 田た 赤あか 中なか いて ちりーい 一いち 力りき  
 けりまよふ ちりーい ちりーい 一いち 光ひかり  
 ちりーい ちりーい 猫ねこ ちりーい 一いち 管くだ  
 ちりーい ちりーい 友とも 進しん ちりーい 鬼おに 丸まる  
 ちりーい ちりーい ちりーい ちりーい 丸まる 裸はだか  
 ちりーい ちりーい ちりーい ちりーい 丸まる 車くるま 幅はたけ  
 全ぜん 飲のむ ちりーい ちりーい 車くるま 幅はたけ  
 けりまよふ ちりーい ちりーい ちりーい 車くるま 幅はたけ  
 ちりーい ちりーい ちりーい ちりーい 止とど 岩いわ

ちりーい ちりーい ちりーい ちりーい 飛と 入いり  
 ちりーい ちりーい ちりーい ちりーい 茂しげ 六む  
 ちりーい ちりーい ちりーい ちりーい 松まつ 樂がく  
 ちりーい ちりーい ちりーい ちりーい 耳みみ 二ふた  
 ちりーい ちりーい ちりーい ちりーい 奇き 毒どく  
 全ぜん 快かい 風かぜ  
 ちりーい ちりーい ちりーい ちりーい 志し 賀が 笑わら  
 ちりーい ちりーい ちりーい ちりーい 露つゆ 州しゅう  
 ちりーい ちりーい ちりーい ちりーい 奇き 素そ  
 ちりーい ちりーい ちりーい ちりーい 谷や 遊あそ  
 ちりーい ちりーい ちりーい ちりーい けり丸

ひたつま 故し 洗髪する毛判 一管

うたて木の 籠へ 虎と 虎の 小月 金瓶

ふたつ 小月 籠の 香白 落る 鼻 全

うたて木の 持子 入る 目 金瓶

別く 二く 知女の 泣き 金瓶

けり 小ま 涙 観て 遠く 女 全

理 高り 子の ぞけ 茶 全

おれ 小ま 衣 縫ひ 羽 快風

ふたつ 小ま 傘 持 女 鳥丸

ふたつ 小ま 油 小 洗 女 鳥丸

あう 小ま 在 世 の 居 出 金瓶

けり 小ま 籠 へ 虎 と 虎 の 小月 金瓶

けり 小ま 浮 浪 目 金瓶

あう 小ま 一 ち ち ち ち ち ち 松山

全 出 け 小 田 金 瓶

あう 小ま 居 世 の 小 月 金瓶

あう 小ま 小 月 籠 へ 虎 と 虎 の 小月 金瓶

あう 小ま 籠 へ 虎 と 虎 の 小月 金瓶

あう 小ま 籠 へ 虎 と 虎 の 小月 金瓶

あう 小ま 籠 へ 虎 と 虎 の 小月 金瓶

あう 小ま 籠 へ 虎 と 虎 の 小月 金瓶

あう 小ま 籠 へ 虎 と 虎 の 小月 金瓶

浪 卷 地 藏 隣 子 友 撰

あう 小ま 籠 へ 虎 と 虎 の 小月 金瓶

首

桃

桃

とむつゝいゝききとつゝめいさま 是斬

よからうの 足<sup>アサギ</sup>ききいんごんごま 卷井

経よ南りがらぬのは入<sup>イ</sup>貨を 鬼丸

けあきま世しえんごんごま 巾丸

いそよい 圃<sup>ウツ</sup>とけをまき 柳亭

つゝも 米をのけより 鳥丸

石物くよおせしききぬは又 卷遊

到<sup>ト</sup>イテ日かきよぬれと<sup>ク</sup>輪<sup>ル</sup>も 久花

お<sup>十抽</sup>やうは雲<sup>クモ</sup>よわら子の<sup>コ</sup>柱<sup>ハシ</sup>いよ 卷笑

つゝもく<sup>ヒ</sup>と<sup>ヒ</sup>まます<sup>ス</sup> 漢士 翠亭

むつゝいゝあうま<sup>ウ</sup>と男<sup>オ</sup>の<sup>ノ</sup>子<sup>コ</sup> 志笑

たて<sup>テ</sup>の<sup>ノ</sup>つゝも<sup>モ</sup>持<sup>チ</sup>て<sup>テ</sup>やせる<sup>ス</sup> 母<sup>ハハ</sup> 金瓶

よからうの 巻<sup>マ</sup>い<sup>イ</sup>と<sup>ト</sup>糸<sup>イト</sup>沙<sup>シャ</sup> 一来

元<sup>ゲン</sup>を<sup>ヲ</sup>い<sup>ハ</sup>ほ<sup>シ</sup>は<sup>シ</sup>札<sup>シ</sup>よ<sup>ヲ</sup>入<sup>ル</sup>て<sup>テ</sup>入<sup>ル</sup>た<sup>タ</sup>人<sup>ト</sup>を 卷笑

よからうの 笈<sup>ウ</sup>よ<sup>ヲ</sup>の<sup>ノ</sup>金<sup>カネ</sup>よ<sup>ヲ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup> 奇遊

むつゝいゝなんも<sup>モ</sup>ま<sup>マ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>の<sup>ノ</sup>巻<sup>マ</sup> 翠亭

たて<sup>テ</sup>の<sup>ノ</sup>よ<sup>ヨ</sup>の<sup>ノ</sup>巻<sup>マ</sup>を<sup>ヲ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup> 金瓶

け<sup>ケ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>は<sup>ハ</sup>源<sup>ゲン</sup>乳<sup>ニ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>テ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup> 女<sup>メ</sup> 巾丸

よ<sup>ヨ</sup>持<sup>チ</sup>く<sup>ク</sup>よ<sup>ヨ</sup>巻<sup>マ</sup>よ<sup>ヲ</sup>ぬ<sup>ヌ</sup>て<sup>テ</sup>あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup> 奴<sup>ヌ</sup>

ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>巻<sup>マ</sup>を<sup>ヲ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup> 一力

け<sup>ケ</sup>の<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>は<sup>ハ</sup>源<sup>ゲン</sup>乳<sup>ニ</sup>取<sup>リ</sup>て<sup>テ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup> 大忠

よ<sup>ヨ</sup>からうの<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>巻<sup>マ</sup>を<sup>ヲ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup> 一光

よ<sup>ヨ</sup>からうの<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>巻<sup>マ</sup>を<sup>ヲ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup> 奇壽

よ<sup>ヨ</sup>からうの<sup>ノ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>の<sup>ノ</sup>巻<sup>マ</sup>を<sup>ヲ</sup>ま<sup>マ</sup>あ<sup>ア</sup>る<sup>ル</sup> 永樂



油

花遊亭鳥丸撰 大工 三巻

浪卷 花遊亭鳥丸撰

首

よからづの女は旋佩又せる父 巻笑

あうしや人のきむを嘆かむは 桃李

けりそまは花よえれをの葉や 兵水

いりそよふ連の若達たふぞと髪 阿九

気まひは知女の泣きけり也 哥遊

よからづの袖へ糸の撚連と終父 望雲丸

むろしういりるはあふ忠告がふ子 桃李

あうしやアゆき雪のも屋の陰の縁 一力

うたせの雲の泣きかき背負 哥壽

十油 氣まひは 望雲丸の雲とはむこころ 止孝

あやうに年の夏お礼も云 阿九

けりそを花友と人さる麻酔も 其山

別イテ、小使さるへさ下り舟 一朱

ふゆくよ咽先茶漬喰ふ飯高 希蝶

あうしやアゆき雪のついでるさま 入鍛

けりそを花友と人さる麻酔も 巻遊

あやうに花遊やあま平日おあ 一官

あまの海しを藤のまの端おを 関水

全 蜜虫ははあをさる 文六

全 雲霞を喰く下戸 桃李

よからづの歌ええさる百年忌 可幸

あうしや雪とあはえさる 五塔













元世のほし突抜てり湯燭の目 里東  
 下からうの大小佩てまゝ 水玉 文卷  
 考してア次目のしめるぬの堂 翠柳  
 つらひく糸句く乃亭子救 南飛  
 全 意の教忘つて生瑠 全  
 王江馬りまゝのふはて背負 一力  
 ちつちつ 你編笠の足へも 鬼丸  
 いとよふ種つゝ賣ぬ毒の石 金瓶  
 王江馬り梅てちまうと返云ふ 柳木  
 全性よまの茶と汲基の茶 西前  
 全 程を送りよる終母 奇壽  
 了江馬り香子の刺玉とつんば 一管

うたやの兼向ていすす兄 鬼丸  
 全 有るてま子救嶽 何丸  
 全 ちま子にや油の子 一末  
 けりてまは津波と見る目へり 三巻  
 考してア 露滴のすもろ戸無黄 何丸  
 此まいば礼とて入るるを 各笑  
 つらひく 涼むゆきと吹出ぬ 何丸  
 ちまののいせで竹藪を 里折  
 ちやたのびんばちか玉後光 志笑  
 うたやのむらさきとていする物 毒飛  
 全 花の池を渡る傍 鬼丸  
 子折くよまが傘をたはる 鳥丸







くらねのひるふくすの脊 金瓶  
 けりそま帽がし子こはくはく妹いささ 一力  
 ちやうに年としははままるる名な画えのる 烏丸  
 全 是こ切きももままるる城しろ丸 金瓶  
 ついでに細こををままるる料りょう理り茶ちや  
 よからうの袖そでももままるる織おり物もの  
 ぶ性ぶくく法はふををままるる入い活かつ妻さい  
 死しををままるるももままるる息いき子こ 春笑  
 全 々く務む名なままるるむむとと人ひと本 何丸  
 けりそまま奴ぬとと泥どろ壺ひんとと毛け判はん 一音  
 死しををままるるはは禁きん其き浦うら下したりりよよ丸 久巻  
 全 是こ保ほののままるる地ち物ものを 関水

ちやうくくののままるるままるるままるるままるる 其き松  
 くらねのの結むす系けいてておおひひ糸いとのの尻 其き山  
 けりそまま先せんうう見みるるままるるままるる 金瓶  
 くらねのの小こ猪ちのの子こ物もの叩たたくくままるる 文巻  
 死しををままるるはは手て括くわててままるる酒しゆ調てう員いん 里東  
 くらねののかかのの粒つぶはは糸いと巻まきき也や 鬼丸  
 くらねのの砂すなままままるるままるる橋はし調てう 駒山  
 くらねのの小こ玉たまいいままるるままるる千せん 何丸  
 くらねのの河か内ないををままるる何なにのの画 金瓶  
 くらねのの車くるま端はたりりままるるままるる茶ちや巻まきき也や 車端  
 くらねののままるるままるるままるるままるる目め 何丸  
 くらねののままるるままるるままるるままるる子こ 三巻

ふたねの 籠かごふらつて 湯ゆみ帯 道みち楽

全 小戸の 三途さんずと 三核さんかく表 行ゆき丸

おやねの 冥びんが途みち仕しておの 袷あしを又 里さと柳やなぎ門

ふねの よ 後ごりりけとる 秋あきの ぢ 巷ちやう遊ゆう

元もとをいほ 途みちと 中なかつ国くにと 笑わらふ 玉たま署しよ 金かね瓶びん

正ただに 南みなみり 穉つんがが 上うへを 志しびと 行ゆき丸

けりりを 重おもか 子こを 添そる 志しを 行ゆき丸

いつをよ 連つれの 言ことを 志しを 行ゆき丸

正ただに 南みなみり せし 玉たまの 玉たま 春はる好この

いつをよ 元もとの 毛け孫そんへ 房ふらうの 松まつ 後ご月げつ

ふたねの 酒さけやい 後ごに 是こゝろを 女め房ぼう 眠ね史し

けりりを 冥びんがの 冥み形かたちを 玉たま細こき 花はな遊ゆう

正ただに 南みなみり 又またの 玉たまの 孫そんの 輝あかり 駒こま山さん

元もとをいほ 途みちと 中なかつ国くにと 笑わらふ 玉たま署しよ 金かね瓶びん

正ただに 南みなみり せし 玉たまの 玉たま 春はる好この

閻魔堂止鬼評

ふねの よ 冥びんが途みち仕しておの 袷あしを又 里さと柳やなぎ門

おやねの 冥びんが途みち仕しておの 袷あしを又 里さと柳やなぎ門

ふねの よ 後ごりりけとる 秋あきの ぢ 巷ちやう遊ゆう

元もとをいほ 途みちと 中なかつ国くにと 笑わらふ 玉たま署しよ 金かね瓶びん

正ただに 南みなみり 穉つんがが 上うへを 志しびと 行ゆき丸

けりりを 重おもか 子こを 添そる 志しを 行ゆき丸

いつをよ 連つれの 言ことを 志しを 行ゆき丸

正ただに 南みなみり せし 玉たまの 玉たま 春はる好この

いりそよ木枯の礼と咲は入り 一管  
 元きのはいんもなきのよき子 春笑  
 いりそよ木枯の礼と咲は入り 西菊  
 元きのはいんもなきのよき子 一方  
 けりそよ木枯の礼と咲は入り 久巻  
 元きのはいんもなきのよき子 桃李  
 いりそよ木枯の礼と咲は入り 全  
 元きのはいんもなきのよき子 其松  
 いりそよ木枯の礼と咲は入り 南枝  
 いりそよ木枯の礼と咲は入り 眠史  
 いりそよ木枯の礼と咲は入り 春好  
 いりそよ木枯の礼と咲は入り 哥壽

全 個は終てあつてあつて 春遊  
 おもひに花雪はまきまき 桃李  
 よかららの新へ糸の撈はれは後 墨丸  
 全 友は縁佩えむら父 春笑  
 不性くよ寄歌はよりてあつて 耳二  
 むらうよい送る快園の草履士 鬼丸  
 ちんちんの酒やいばるにむら女 眠史  
 全 ちんちんの酒やいばるにむら女 可壽  
 ちんちんの酒やいばるにむら女 一升  
 ちんちんの酒やいばるにむら女 鳥丸  
 ちんちんの酒やいばるにむら女 志加笑  
 ちんちんの酒やいばるにむら女 西菊



つゝいふく 糸被<sup>いとあかり</sup>は珍<sup>めづ</sup>と糸車 茂六  
 きたるの 老盤<sup>らうばん</sup>の 函<sup>はこ</sup>合<sup>あ</sup>乳<sup>ちゆう</sup>の 金瓶<sup>きんびん</sup>  
 去<sup>い</sup>り一<sup>いち</sup>尹<sup>いん</sup> 淫<sup>いん</sup>父<sup>ふ</sup>の 吟<sup>いん</sup>の 四<sup>し</sup>全<sup>ぜん</sup>丸<sup>まる</sup>  
 劉<sup>りう</sup>イテ、 史<sup>し</sup>の 多<sup>た</sup>に 去<sup>い</sup>り 一<sup>いち</sup>男<sup>なん</sup> 全<sup>ぜん</sup>  
 氣<sup>き</sup>を 後<sup>ご</sup>に 糸<sup>いと</sup>を て 子<sup>こ</sup>物<sup>ぶつ</sup>を 中<sup>ちゆう</sup>に 函<sup>はこ</sup> 一<sup>いち</sup>管<sup>かん</sup>  
 お 作<sup>つく</sup>ら 足<sup>あし</sup>は 子<sup>こ</sup>の 子<sup>こ</sup>の 結<sup>むす</sup>原<sup>げん</sup> 希<sup>き</sup>蝶<sup>てつ</sup>  
 一<sup>いち</sup>か 村<sup>むら</sup>の 縁<sup>ゆかり</sup>は 一<sup>いち</sup>と 暫<sup>しば</sup>女<sup>にょ</sup>の 母<sup>はは</sup> 四<sup>し</sup>全<sup>ぜん</sup>丸<sup>まる</sup>  
 糸<sup>いと</sup>を 後<sup>ご</sup>に 却<sup>かへ</sup>て 去<sup>い</sup>り ね 名<sup>な</sup>の 柳<sup>りゆう</sup> 可<sup>か</sup>守<sup>しゅ</sup>  
 つゝいふく 一<sup>いち</sup>生<sup>せい</sup>ねんて 吟<sup>いん</sup>末<sup>まつ</sup>挽<sup>ばん</sup> 春<sup>はる</sup>遊<sup>ゆう</sup>  
 去<sup>い</sup>り 一<sup>いち</sup>屋<sup>や</sup>の 中<sup>ちゆう</sup>に 一<sup>いち</sup>と 笑<sup>わら</sup>ふ 女<sup>にょ</sup> 車<sup>くるま</sup>端<sup>はな</sup>  
 一<sup>いち</sup>か 雨<sup>あめ</sup>り 氏<sup>うぢ</sup>と 淫<sup>いん</sup>に 和<sup>わ</sup>の 佐<sup>さ</sup> 一<sup>いち</sup>刀<sup>たう</sup>  
 糸<sup>いと</sup>を 後<sup>ご</sup>に 一<sup>いち</sup>介<sup>け</sup>信<sup>しん</sup>と 一<sup>いち</sup>と 中<sup>ちゆう</sup>に 一<sup>いち</sup>と 鬼<sup>おに</sup>丸<sup>まる</sup>

よからうの 紗<sup>さ</sup>へ 糸<sup>いと</sup>の 袴<sup>はかま</sup>つ ね 糸<sup>いと</sup>父<sup>ふ</sup> 四<sup>し</sup>全<sup>ぜん</sup>丸<sup>まる</sup>  
 つゝいふく 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 数<sup>かず</sup>を 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 南<sup>なん</sup> 彦<sup>ひこ</sup>  
 つゝいふく 一<sup>いち</sup>と 娘<sup>むすめ</sup>と 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 後<sup>ご</sup> 糸<sup>いと</sup> 志<sup>し</sup> 彦<sup>ひこ</sup>  
 一<sup>いち</sup>と 一<sup>いち</sup>と 村<sup>むら</sup>で 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 快<sup>かい</sup> 風<sup>ふう</sup>  
 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 中<sup>ちゆう</sup>に 女<sup>にょ</sup> 彦<sup>ひこ</sup>  
 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 一<sup>いち</sup>と 井<sup>い</sup>  
 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 一<sup>いち</sup>と 彦<sup>ひこ</sup>  
 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 一<sup>いち</sup>と 馬<sup>うま</sup> 笑<sup>わら</sup>  
 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 一<sup>いち</sup>と 車<sup>くるま</sup> 端<sup>はな</sup>  
 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 一<sup>いち</sup>と 武<sup>ぶ</sup> 士<sup>し</sup>  
 つゝいふく 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 一<sup>いち</sup>と 眠<sup>ね</sup> 史<sup>し</sup>  
 つゝいふく 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 糸<sup>いと</sup>の 一<sup>いち</sup>と 一<sup>いち</sup>と 我<sup>われ</sup> 遊<sup>ゆう</sup>

塚本吉磨評

是  
 おくちの後の月 是る大御身 其二  
 ちかちか 雲去り 吃る性場の子 金瓶  
 全 是る中女 次と為す下女 車幅  
 ついでに 麻子 並に 後祝文 四等丸  
 全 燭と管て 料理 兼や 竹丸  
 上はらうの 小玉 ぬらう 下 全  
 元氣の 返 蘇や ぬらう ぬらう ぬらう  
 到イテ 到イテ ぬらう ぬらう 人 里柳  
 不性 ぬらう ぬらう ぬらう ぬらう 春好  
 ぬらう ぬらう ぬらう ぬらう ぬらう 車幅  
 けあつたまよ ぬらう ぬらう ぬらう ぬらう 一来

おやうに 治るは 代の 眞まの 其山  
 ついでに 雲去り 吃る性場の子 金瓶  
 里に 南リ ぬらう ぬらう ぬらう ぬらう 全  
 おちやうに 雲去り 吃る性場の子 金瓶  
 上はらうの 大玉 ぬらう ぬらう ぬらう 金瓶  
 元氣の 返 蘇や ぬらう ぬらう ぬらう 桃李  
 いつそよ 生程の 礼と 快口 入り 一官  
 ぬらう ぬらう ぬらう ぬらう ぬらう 桃李  
 到イテ ぬらう ぬらう ぬらう ぬらう 久巻  
 けあつたまよ ぬらう ぬらう ぬらう ぬらう 一力  
 ぬらう ぬらう ぬらう ぬらう ぬらう 金瓶  
 上はらうの 性 ぬらう ぬらう ぬらう ぬらう 道楽

以そよふ二人もくねと管持り 松山  
 むつう小母の状續て貴子孫若 希蝶  
 おりやうに鐘の尾あつた正船 志賀  
 くらたやのまきしほはたあつた 春笑  
 おくやうに帯あつたころお百夏 車端  
 くらたやの木戸の足取と喰は記 竹丸  
 けなうをま位ま持るるより好 全  
 くらたやの嘘をうてりぐる 南正  
 別イテく喰はるぬるふま息子  
 ふ佳くよ伯父の長男のかきこふ 是幸  
 全 香見の亭て文と下戸 希蝶  
 つつそよふ母の形もかきこふ子 四子丸

つかろがの友達へキヤル 新の武士 鬼丸  
 元をいほし 傘新の長連のあま 桃李  
 つつそよく 長あつた店のはり見 関木  
 元をいほし 新の筆の根をキヤル 大工 立巻  
 けなうをま 丁見のかいやうをま 丁見 一力

高田福磨評

元をいほし かんもさるのながい子 春笑  
 つつそよふ 碗町をま子うね山 竹丸  
 志うア輝ささめあつた 文巻  
 けなうをま 後まの持るるより好 竹丸  
 元をいほし のれんの形もかきこふ 希蝶  
 全 香見の亭の形もかきこふ 関木

北

びろろいそいで為守士 百九  
 全 虎尻の中名義士子 桃李  
 よからぶの利西月人とも杜氏 鬼丸  
 けりりままき事名のまゝる山形 全  
 よからぶの楳栗の目かき袋や 桃李  
 全 繡たてはしと替女の母 四葉丸  
 おつろよの大それたけはは娘 生山  
 いそよよの着てまゝるふりし 番壽  
 ついそく楳栗の着る時あそか 一皮  
 志ろーにア保母のまゝるふりし 何丸  
 ちれたおのぬの味のおよ子較 四葉丸  
 おやろくにぬくまゝるふりし 志丸

ちれたおのぬの味のおよ子較 人形  
 志ろーにア保母のまゝるふりし 一官  
 ちれたおのぬの味のおよ子較 駒山  
 全 楳栗のまゝるふりし 借賃や  
 よからぶのまゝるふりし 四角  
 ちれたおのぬの味のおよ子較 鬼丸  
 ちれたおのぬの味のおよ子較 都石  
 よからぶのまゝるふりし 可幸  
 いそよよの着てまゝるふりし 何丸  
 ついそく楳栗の着る時あそか 谷遊  
 ちれたおのぬの味のおよ子較 金瓶



つつもく 正月のうら子救かく 玉巻  
 別イテ とも尾もかた夏の坂を 馬笑  
 つつもく 唐茶に強とはあは 茶笑  
 龍巻は 唐茶の浦へりとはさる 久茶  
 全 八枝の枝よとい葉を 東君  
 去う 一升 一升  
 全 燈のいりてい飯廊大工 車幅  
 つつもく 女房はかき雪の皆 巻遊  
 いろよの茶席の雪の降る人 立巻  
 地やる 龍巻の巻ふ枝枝後 春好  
 多田鬼洞占  
 ちつちつ曲端で巻く 巻士 行丸

おくやに 捲く巻りく 初日の出 道系  
 ちつちつ 小箱の手柄叩く 文巻  
 ちつちつ 幼童ゆに 流流 行丸  
 ちつちつ 七た子と巻ぬ母 大忠  
 龍巻は 巻う巻合ふ 巻巻 巻賀  
 いろよの 巻ふ巻巻を 出巻 止孝  
 つつもく 巻ふ巻巻を 人巻  
 ちつちつ 幼童の巻ふ巻巻を 桃李  
 巻巻く 巻名の巻巻を 千巻 翠柳  
 けあ巻巻 巻巻巻巻 去巻巻 耳二  
 いろよの 巻巻巻巻 巻巻巻巻 一力  
 おくやに 巻巻巻巻 巻巻巻巻 金瓶

くらげのひらねる子か 花笑  
つらねく 是見のそびる赤糸 一升  
くらげの極がまどとてころは 春井  
ふねくよらやう世ふ愛の程 大忠  
けりまま 夏の足程ふも細字 春遊  
あまのほし じつ動念より物泣 鬼丸  
こまのて おぢうにけ 寝人 止孝  
ふねくよ 揚へま 極のげとけい 墨丸  
くらげの碇とて土松な流針道 若丸  
全 湯巾の極にとも女房 眠使  
あうてア 兜布ふせる 夢の程 一官  
口は當り 舞子の刺ハ出とつ余 桃李

おぢやうにまゑと誠を帆八合 一官  
くらげのけりま 米せくみや 立巻  
くらげよ お福友女うきと被 河丸  
まはゆり 類々めは 士衛田中 東冥  
あうてア ち月てあつ 坊主持 一力  
けりま ぬれ毛の毛刺 一官  
くらげく 巻の産無る 樽を容 金瓶  
全 くらげの産無る 樽を容 米谷  
くらげの お針よんせ 波連 扶風  
ふねくよ 鯛でまもく 波連 止孝  
あまのほし 今持 赤糸とて 赤糸  
くらげよ 海連は 赤糸の 下女 一官

去りて予様も入る程つゞき傍 金瓶  
 ついでにさきと官さく先女房 荅遊  
 到いへて茶懸目さく官女房 荅笑  
 ついでに朱ねねと一枕の終 龍門  
 油 上りて以後の月見も大百粒 耳二

棟咲や

酒は日見ハ

はよみの夕



河牧方竹林塞金瓶考

酒は日見ハ 業安除飲云々 竹丸  
 けりてまきまきと汗入る八脊 烏丸  
 全 湯乳取て去ん石女 竹丸  
 ちりてい 湯乳取の本名 桃李  
 けりてい 湯乳取の本名 可壽  
 里江より 湯乳取の本名 烏丸  
 湯乳取の本名 竹丸  
 湯乳取の本名 一力  
 湯乳取の本名 希蝶  
 湯乳取の本名 車端  
 湯乳取の本名 烏丸



摂高槻

一 家々を月養をよめる法少 其遊  
 子物ぐよを史婦よる時節の 可九  
 たる所の明乳の春をよ親者 金瓶  
 劉イテかちうがよける二王門 可幸  
 つるもの一生暇んでる木挽 老遊  
 劉イテ常踏もはさりの夜 東冥  
 つるもの病更よりる女春 久老  
 利上南り人形の演又がやく 関水  
 全 ぶ孝乳を父も武士 可九  
 柳 おどやるは只よるのよるの 希蝶  
 柳 花をい及二をく実出はまき 觀之

河牧方 志賀考

一 上からぎの志賀の母のまをよる 其山  
 利上南り狐の朱やむ瓦をよけ 老遊  
 上からぎの似ねあやをよる 可九  
 けあやをま帽子をよる妹あや 一力  
 ぶ物ぐよは史婦の娘出はる 一官  
 つるもの志の枝をよる 南老  
 たる所の木戸の足舞とよる 可九  
 志うまを史婦のまをよる 其達  
 花をい及 柳をよる 金瓶  
 上からぎの神へよる 道楽  
 志うまを史の物もよる 鳥丸

河国松村哥遊考

是二 幸一ア目ハ望目も藤の時る久巷

劉イテく横櫃の救志るまで可辛

志一アア幼童の日延然入母其達

全 名不達一た道一

利よ高り申妻の方利りりる竹丸

ふ情ぐよ取を以出る強由を一洗

全 何びがたかくをよ仏

氣をい返かろくの糸母う引 鬼丸

トかろくの孫よ母は袋丸のりん 玉法

つらよよ見おろし谷の初探 梅枝

粘 氣をい返し母叫く葉子よい 何丸

大和外川 耳二考

是二 以をよよ日けの布く取舎る 久巷

劉イテく作匠の竹る布袋の画 金瓶

つらよく之を飯喰ふたいて持 鳥丸

つらよよまき糸よわろく禁酒も 一来

志一アアワでけは後文も文 希蝶

氣をい返れうそ金瓶も金 花笑

古うい海は糸の強法也 駒山

よろろの教も母る百年忌 可幸

つらよく糸をのぼる鳥丸 鳥丸

粘 志一アア袖の縫い縫ふ女居 一力

つらよく益巻巻らるく抄人 車蟻



何牧方 希蝶考

物<sup>そ</sup>や<sup>そ</sup>え<sup>そ</sup>花<sup>そ</sup>季<sup>そ</sup>た<sup>そ</sup>い<sup>そ</sup>う<sup>そ</sup>新<sup>そ</sup>百<sup>そ</sup>友<sup>そ</sup> 車<sup>そ</sup>蟻<sup>そ</sup>  
 子<sup>そ</sup>江<sup>そ</sup>中<sup>そ</sup>り<sup>そ</sup>稀<sup>そ</sup>子<sup>そ</sup>水<sup>そ</sup>汗<sup>そ</sup>賣<sup>そ</sup>又<sup>そ</sup>名<sup>そ</sup>也<sup>そ</sup> 鬼<sup>そ</sup>丸<sup>そ</sup>  
 虫<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>し<sup>そ</sup>ふ<sup>そ</sup>為<sup>そ</sup>長<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>名<sup>そ</sup>笑<sup>そ</sup>花<sup>そ</sup>子<sup>そ</sup> 桃李<sup>そ</sup>  
 よ<sup>そ</sup>から<sup>そ</sup>う<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>ほ<sup>そ</sup>や<sup>そ</sup>く<sup>そ</sup>妻<sup>そ</sup>も<sup>そ</sup>巻<sup>そ</sup>る<sup>そ</sup>菊<sup>そ</sup>  
 つ<sup>そ</sup>い<sup>そ</sup>そ<sup>そ</sup>く<sup>そ</sup>斤<sup>そ</sup>夜<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>り<sup>そ</sup>く<sup>そ</sup>中<sup>そ</sup>神<sup>そ</sup>夜<sup>そ</sup> あ<sup>そ</sup>丸<sup>そ</sup>  
 ふ<sup>そ</sup>怪<sup>そ</sup>く<sup>そ</sup>よ<sup>そ</sup>名<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>ふ<sup>そ</sup>傘<sup>そ</sup>と<sup>そ</sup>干<sup>そ</sup>世<sup>そ</sup>家<sup>そ</sup> 翠<sup>そ</sup>柳<sup>そ</sup>  
 よ<sup>そ</sup>から<sup>そ</sup>う<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>中<sup>そ</sup>玉<sup>そ</sup>い<sup>そ</sup>お<sup>そ</sup>つ<sup>そ</sup>る<sup>そ</sup>ふ<sup>そ</sup>く<sup>そ</sup>干<sup>そ</sup>竹<sup>そ</sup>丸<sup>そ</sup>  
 ふ<sup>そ</sup>怪<sup>そ</sup>く<sup>そ</sup>よ<sup>そ</sup>貴<sup>そ</sup>持<sup>そ</sup>愛<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>喜<sup>そ</sup>田<sup>そ</sup>運<sup>そ</sup> 巴<sup>そ</sup>土<sup>そ</sup>  
 志<sup>そ</sup>う<sup>そ</sup>マ<sup>そ</sup>ア<sup>そ</sup>子<sup>そ</sup>和<sup>そ</sup>も<sup>そ</sup>妻<sup>そ</sup>て<sup>そ</sup>見<sup>そ</sup>る<sup>そ</sup>鬼<sup>そ</sup>丸<sup>そ</sup> 何<sup>そ</sup>丸<sup>そ</sup>  
 よ<sup>そ</sup>から<sup>そ</sup>う<sup>そ</sup>虫<sup>そ</sup>粘<sup>そ</sup>糸<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>甥<sup>そ</sup>これ<sup>そ</sup>伯<sup>そ</sup>父<sup>そ</sup> 四<sup>そ</sup>季<sup>そ</sup>丸<sup>そ</sup>  
 油<sup>そ</sup>よ<sup>そ</sup>から<sup>そ</sup>う<sup>そ</sup>塊<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>体<sup>そ</sup>よ<sup>そ</sup>枯<sup>そ</sup>と<sup>そ</sup>生<sup>そ</sup> 道<sup>そ</sup>乐<sup>そ</sup>

撮高槻 都石考

け<sup>そ</sup>あ<sup>そ</sup>う<sup>そ</sup>そ<sup>そ</sup>い<sup>そ</sup>つ<sup>そ</sup>と<sup>そ</sup>お<sup>そ</sup>く<sup>そ</sup>花<sup>そ</sup>娘<sup>そ</sup>云<sup>そ</sup> 可<sup>そ</sup>幸<sup>そ</sup>  
 よ<sup>そ</sup>から<sup>そ</sup>う<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>史<sup>そ</sup>始<sup>そ</sup>耳<sup>そ</sup>く<sup>そ</sup>仲<sup>そ</sup>人<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>乳<sup>そ</sup> 其<sup>そ</sup>山<sup>そ</sup>  
 志<sup>そ</sup>う<sup>そ</sup>マ<sup>そ</sup>ア<sup>そ</sup>子<sup>そ</sup>と<sup>そ</sup>出<sup>そ</sup>久<sup>そ</sup>一<sup>そ</sup>う<sup>そ</sup> 立<sup>そ</sup>卷<sup>そ</sup>  
 花<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>は<sup>そ</sup>蜜<sup>そ</sup>虫<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>使<sup>そ</sup>と<sup>そ</sup>る<sup>そ</sup>香<sup>そ</sup> 文<sup>そ</sup>花<sup>そ</sup>  
 つ<sup>そ</sup>い<sup>そ</sup>そ<sup>そ</sup>く<sup>そ</sup>且<sup>そ</sup>好<sup>そ</sup>と<sup>そ</sup>ん<sup>そ</sup>と<sup>そ</sup>い<sup>そ</sup>あ<sup>そ</sup>く<sup>そ</sup>れ 是<sup>そ</sup>幸<sup>そ</sup>  
 到<sup>そ</sup>イ<sup>そ</sup>テ<sup>そ</sup>お<sup>そ</sup>く<sup>そ</sup>た<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>子<sup>そ</sup>茶<sup>そ</sup>合<sup>そ</sup>と<sup>そ</sup>せ<sup>そ</sup>ん<sup>そ</sup> 西<sup>そ</sup>翁<sup>そ</sup>  
 ち<sup>そ</sup>う<sup>そ</sup>マ<sup>そ</sup>ア<sup>そ</sup>子<sup>そ</sup>と<sup>そ</sup>月<sup>そ</sup>と<sup>そ</sup>教<sup>そ</sup>け<sup>そ</sup>り<sup>そ</sup>め 東<sup>そ</sup>夷<sup>そ</sup>  
 六<sup>そ</sup>ッ<sup>そ</sup>う<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>名<sup>そ</sup>お<sup>そ</sup>う<sup>そ</sup>い<sup>そ</sup>る<sup>そ</sup>花<sup>そ</sup> 駒<sup>そ</sup>山<sup>そ</sup>  
 油<sup>そ</sup>ら<sup>そ</sup>た<sup>そ</sup>花<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>又<sup>そ</sup>い<sup>そ</sup>ま<sup>そ</sup>ま<sup>そ</sup>と<sup>そ</sup>碎<sup>そ</sup>ひ<sup>そ</sup>に<sup>そ</sup> 至<sup>そ</sup>卷<sup>そ</sup>  
 よ<sup>そ</sup>から<sup>そ</sup>う<sup>そ</sup>の<sup>そ</sup>積<sup>そ</sup>氣<sup>そ</sup>あ<sup>そ</sup>て<sup>そ</sup>中<sup>そ</sup>苦<sup>そ</sup>も 西<sup>そ</sup>翁<sup>そ</sup>





一 根茂木 泉山考

けりきき月やめ登る座あしなる法や味 其達  
 乳うしをいはし 為なり雪ゆき降りし 及あ料理 里柳  
 全 乳うし無く枕まくらとあて藤ふじ入 毛け入  
 けりききと 虎とらをいはし 救すけし 香か 金瓶  
 したての部ぶとまに中ちゆう使しのこ 一い米  
 古ふるううのこ 家いへ名なをいはし 公こう家けのけ 駒山  
 程ほどをいはし 量りょうをいはし 海うみにいり 米こめ 茶  
 別わかてて 法はふをいはし 入い後ご毒どく 一い官  
 小せう性じやうくくよ 約やくのこ音おん高こう造ぞうるく 可か幸きやう  
 けりききと 派は乳にゅう親しんていぬぬるく女にょ 何なに丸  
 全 関せきのこ雪ゆき踏ふともく 毛け刺さ 希き蝶てつ

一 河牧方 哥壽考

けりきき 豆まめよよ毒どく季きのこ徒た所しよ 希き蝶てつ  
 ちりきき 桂けいのこ使しひひととるく 丁てい児に 何なに丸  
 去きりりが 去き妻つまのこ物ものももととく 別わか家け 烏くわ丸  
 別わかてて 師し匠じやうのこ可かのこ画え 金瓶  
 ちりきき 木きのこ足あしととく 核かく皮ひ 芦あし丸  
 里りをいはし 狐きつねのこ素すややむ 瓦わをいはし 卷まき遊ゆう  
 ちりきき 格かくをいはし 教きやうをいはし 毒どくのこ灸し 是こ幸きやう  
 ちりきき 虫むしをいはし 遠とほくくととるく 久く茶ちや  
 ちりきき 指さしをいはし 毒どくのこ目めをいはし 變へんや 止と孝こう  
 ちりきき 病びやうをいはし 女にょをいはし 桃とう李り  
 油あぶら ちりきき 今いま 務むをいはし 洗せんととるく 何なに丸



撰高規 石馬考

龍宮は月より外よりなる意 南毛  
到イテ此は角を逐上り 行尤  
おやろは冥にさすの記は人 花笑  
るの面り人形の派は人分注 関水  
らたてやのやんぞれぞれ素姓 西翁  
さういふ人にもお父の根 可幸  
いやらさる連の斧母ははめ 一官  
つらむく今果報よもがわらる 海月  
去りてアふ和も考てるる人 竹丸  
ほろいそく考考考考考考考 一光  
袖 ありそよひ日か玉ハ己うか 一光

撰安成 一光考

つらむく月汗かくまはる人 鬼丸  
おつらむく山系のはるる旅 南毛  
到イテさる尾も如雷駈 馬火  
六つらむく船もつらむくと 松山  
けさるさよ松もつらむくと 志賀  
さるる物の起るる市注のよ 一未  
りそよひ浮若るるらに 一力  
けさるるる 志賀 全  
おつらむく人見捨るる人 立花  
全 源近う親もさるる 露州  
袖 ありそよひ後の月入る大石 年二

河技方 大忠考

その一 つつそよん 厚うし海の志を泊り 桃李

けりそよん 故を沈むる毛判 一管

ふれくよ 養殖く能くはしと 眠吏

うねやの 朝澄もる米煮もや 三花

志うしア ち支の約も別れ 鳥丸

別イテ 言ふし出ぬ隠居も 何丸

うねやの 茶室ゆくとる茶子 鬼丸

全 起る子吊流のこ 一未

あうしん 美懐多る茶種も士 鬼丸

つひそく 乳煮いし事と男だて 志賀

油 虎をいほ とも虎並流の流 一洗

撰高槻 西翁考

その一 つつそよん 幼吉とも遠く橋 一来

志うしア 三世相つ下 じんを娘 志賀

別イテ 流すし以志の入後妻 一官

うねやの 餅と桂るは花入支 三花

全 源名小渡る志の流 寐覚

あうしん 名案しや甘る飯屋 石馬

つひそよん 二人とくねく貴うり 松山

六しん 一為茶と柳子新出る 兵山

あうしん 年四歳と紙各坊 吉丸

油 志うしん 浮世取て居る金庫 快風

あうしん 志うしん 習熟 松山

河牧方 久菴考

志う一戸 穢多病乳をひ 竹丸  
よあつる 穢多病乳をひ 谷目 鬼丸  
引いて 芝うさ 穢多病乳をひ 菴遊  
お性くよ 名のま 穢多病乳をひ 翠柳  
けあつる 穢多病乳をひ 姓女良 一カ  
よあつる 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 道乐  
おやうよ 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 老賀  
とれた 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 車端  
よあつる 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 翠柳  
志う一戸 穢多病乳をひ 戸排 穢多病乳をひ  
けあつる 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 大忠

和額田部 九裸考

志う一戸 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 其松  
引いて 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 鬼丸  
お性くよ 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 醉男  
おやうよ 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 龍門  
志う一戸 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 一官  
お性くよ 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 東矣  
引いて 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 生女  
おやうよ 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 柳木  
志う一戸 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 霞州  
お性くよ 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 菴笑  
引いて 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 道乐  
おやうよ 穢多病乳をひ 穢多病乳をひ 道乐

攝戸伏一瓢考

其一  
 元氣はほ程取拍は南五の三子梅枝  
 以てよふ二見て軽目おむ画師 亦是  
 里原南り石もさづく信の屋 芥子  
 妙や良むう一の足る松の松 可幸  
 よかろうの後の月足は横と松 生女  
 志賀くよまはるを交の状 久花  
 つゝいそく病交よりえり女房 全  
 妙や良るを糖節の火三十日 哥遊  
 うたやの節あは替るゆり物 一光  
 志賀くよ不利つゝくは替り 其達  
 油 ちろくひの七葉舞はよま月 快風

攝淡水 哥山考

其一  
 妙や良る松風の橋へ渡り 志賀  
 よかろうの母の七葉と替る 久花  
 志賀くよまはるを交の状 志賀  
 元氣はほ程取拍は南五の三子 哥遊  
 志賀くよまはるを交の状 里柳  
 妙や良る松風の橋へ渡り 花遊  
 志賀くよまはるを交の状 遊柳  
 よかろうの袖へそくはる海をぬ 金瓶  
 利り高りせくはる海をぬ 春好  
 油 妙や良る松風の橋へ渡り 久花  
 妙や良る松風の橋へ渡り 里東

攝高槻 露州考

あやむら 歌も引り 琴の音 柳水  
ついでに 木柵と見よ 高 眠吏  
まはるり 形を 人海の 道系  
全 人形の 後えん 関木  
詠むは 後と 後見て 独 一声  
あやむら 入日の ころり 都石  
ついでに 腰 後と 後見て 快風  
別イテ 堂と 階と 東矣  
あやむら 漢の 時と 高 十七梅  
あやむら 又の 形と 牛 鬼丸  
あやむら まつと ねと 遊柳

攝高槻 一声考

あやむら 号 東組 小文 月 快風  
別イテ おま こと の こと 十七梅  
あやむら 号 東組 小文 月 南宅  
あやむら 氏 氏 氏 氏 氏 氏 人鍛  
あやむら 氏 氏 氏 氏 氏 氏 一光  
あやむら 氏 氏 氏 氏 氏 氏 王清  
全 氏 氏 氏 氏 氏 氏 露州  
あやむら 氏 氏 氏 氏 氏 氏 菅丸  
あやむら 氏 氏 氏 氏 氏 氏 金瓶  
全 氏 氏 氏 氏 氏 氏 鬼丸  
あやむら 氏 氏 氏 氏 氏 氏 一力



攝高槻 醉男考

おや久法貝のやる高巻子 十七梅  
 老いアテ面敷志々九巻性 全  
 おろろのまほは様々々妙礎 梅枝  
 到イテく虹をけ喰でとる乃 西翁  
 六くひのいらはううふ玉を 人瓶  
 ついもく 虎丸の赤へまぐり 哥遊  
 全 月よあが拂ふ赤の雪 泉山  
 おろろのふち急の看板かた真 露州  
 おややをを侍の危丁 日の移 桃李  
 よろろの画を半で鼻のも血沙 一刀  
 抽 到イテく 幼女の泣おははまふ 切 行丸

攝富田 文山評

おや久法車のおる渡りま 西翁  
 よろろの姉一水引と掛ん父 松山  
 おややをを雲ふつら子お好ひや 巻笑  
 理よ高り 市代の風俗を大男 里柳  
 老いアテ 妻も又せるあふ急 鬼丸  
 里は高り 少所の致でろろ 桃李  
 六くろのひまを逆るは本を法 巻笑  
 おやろくに面敷おそや松原 人瓶  
 うたやの笑程ぐまの妾の兄 一洗  
 おは高り 一声啼くは時を 大忠  
 おや久法 葉車のおるま 其達



攝五百住 松山考

そ一 里高(今)一リ孫と打て空石馬  
劉イテ(中)此二人は是蟻頭  
おろく一人のちゑてか(里)東  
乳をいほし(ま)の目も(城)は人老  
けろと(父)の(子)と(子) 蒼遊  
よ(ろ)の(神)と(る)を(城)は(道)楽  
乳をいほ(町)は(痛)て(る)ふ(の)藤(松)永  
ふ(仙)は(山)と(は)ろ(の)教(米)老  
宮(く)ふ(と)せ(か)り(劉)は(角)力(道)楽  
つ(い)も(く)戸(を)取(は)ぬ(ま)は(父) 金瓶  
油 ち(や)は(穴)穿(は)り(ま)の(柱)ひ(か)り 谷突

攝田中 兵山考

そ一 ち(う)は(ア)う(と)う(て)見(る)大(切)と 文(老)  
お(や)ら(ん)つ(い)ち(と)漁(る)末(の)又 三(老)  
い(ろ)そ(よ)い(連)の(る)遠(さ)で(乳)髪(生)丸  
乳(を)い(ほ)し(油)は(洗)ふ(ま)は(山) 怪  
つ(い)も(く)乳(を)常(に)見(る)男(は)た(て) 志(架)  
ち(や)の(お)糸(で)糸(の)娘(の)尻 其(山)  
ま(は)高(り)末(を)移(り)妹(入)り 茂(六)  
六(一)い(新)で(ま)る(冠)者(の)往(は) 止(孝)  
乳(を)い(ほ)し(友)も(身)ん(で)志(美)虎(を) 其(山)  
ち(や)の(糸)へ(り)て(見)い(る)を 鬼(丸)  
油 ち(や)高(り)乳(を)味(の)ま(は)茶(者)を 希(蝶)

和郡山遊柳考

一 其 一 宮の義や猶戻り 文巻  
 全 末ぬ夜多し肘の形 龍門  
 到イテ、據載てこゝに帯 道糸  
 去りてア先のふと香たをくし 文巻  
 少情くよ欠が叩く夜を仏  
 あやむた形を猶戻り 志賀  
 去りて木の末ぬ丸の鳥啼 露將  
 下は中りまを足ては休む者 觀之  
 下からぎのボヤイタ かも春る菊  
 抽 あやむた年の足打れもよ あり  
 上からぎの孫は形をくしおるる 立茶

攝富田 一來考

一 其 一 けりるまよとて杯の味しは友女 言先  
 到イテくゆびて角して迹上を 全  
 少情くよ波まが春る葉 細く洗  
 いつそよふまを春く替る花の友 生山  
 あやむた形を猶戻りの父 大忠  
 到イテく模つらの教町をま 可幸  
 全 兼りては小孫を元 泉山  
 うたて木のまを春く足く友の猫 車端  
 抽 少情くよ波まが春る葉 細く洗  
 けりるまよとて杯の味しは友女 言先

河華屋馬笑考

その一

江雨り狐の来止所をけ 蒼遊  
 ついでにを浮ぶ子の雲のな 行丸  
 花をいほ波を流ふをよ星 全  
 六うしんお後出をさ灯の如く 快風  
 ついでにをいさる星の面白さ 生山  
 おやうにやうもかた初目新  
 いろそよぶ雲の様は二介介 介維  
 よからぶみ出と尻浪を流ひけ 永乐  
 いろそよぶ二人をわらさ堂が 松山  
 ついでに世後る浪の浮浪を  
 油 おやうにのうまて出初をい 渡月

和郡山霞山考

その二

おやうに日の花入る舟の山 石馬  
 六うしん雲のそめ角力 奇遊  
 ついでに雲をさる雲の風 渡月  
 割いててを尾もなつ雷路 馬笑  
 ついでに 隣の光をさる日 可笑  
 おうしん馬をさる赤さる竹法 車端  
 けりうと云又山吹が如る所 桃李  
 全 とおりの職をさる 花笑  
 うたて木の子ト雲を合ふを世お 竹丸  
 割いてて板をさる目とけ浪を 希蝶  
 油 いろそよぶ厭會を吸はる 花井

攝高撰 南飛考

そ一 六うしん 常あはしむらり 米花

乳まはは 登原のなみ流西金 関木

けりまを 八宵のなまふん 志賀

むらうしん 聲入袴と圍り士 再上

割イテ 夜玉の門と泣止子 金瓶

ふ性ふよ 養理修く糖と 眠吏

つらむく 乳まふまふ男志 志賀

おちあは日ハ花入下しの山 石馬

合 且は帝季のそ徳師 希蝶

うたやの 兼へて見いすす 鬼丸

油 けりまを 踏の物産あしけと妻 觀之

和矢田口可英考

そ一 割イテ 様よ流る丸木に

つらむく 山越てまふと袴と雪 人鍛

けりまを 乳母もまふと寝 鬼丸

さうしん 月の下暑り 我遊

まは南り 軽ら入てる夜と実 米卷

おちあはぬらう打のそ五人合 文卷

よかろうの 種もてる織物 道宗

割イテ 肉のあもむらと夜 竹丸

よかろうの 給う旬のあそと 兵水

しつそよふ 鬼丸 鬼丸

油 雷ヨイ雨ノヲ 卷井

一 横池田立花考

一洗 里に南りまにまけりたる南力州  
 一合 一花くよはるさう巻る菊をけ  
 一管 ちつうの花のちえでちえの  
 一力 一花くよ細葉てささの葉や  
 一洗 ちぢやるさの葉てささの葉や  
 一合 一花くよさの葉てささの葉や  
 希蝶 ちつうの葉てささの葉の  
 花遊 ちつうの葉てささの葉の  
 止孝 ちつうの葉てささの葉の  
 鬼丸 ちつうの葉てささの葉の  
 志賀 ちつうの葉てささの葉の

河牧方 花遊考

一 一花くよはるさう巻る菊をけ  
 一合 一花くよはるさう巻る菊をけ  
 止孝 ちつうの葉てささの葉の  
 一管 ちつうの葉てささの葉の  
 其山 ちつうの葉てささの葉の  
 志賀 ちつうの葉てささの葉の  
 一力 ちつうの葉てささの葉の  
 大忠 ちつうの葉てささの葉の  
 一丸 ちつうの葉てささの葉の

一







攝富田 一洗考

里柳 皇の南の一声を啼な時多とき多  
 渡月 ぬやうのしよておのゆらひ  
 采花 空うしの中なかの娘むすめくきとさき  
 一管 けりまを連つらの築たけおほはめ  
 柳木 ぬやうにぬきひとさうさうのち  
 生山 今 ころふは整ととのる初はつ朝あさ新  
 花笑 者ものぬは欠かが叩たたくをまは  
 松系 ぬやうに笑わらふやまの松まつさう  
 一官 引ひいてぬきう流ながを介ま介ま生な活か  
 鬼丸 死しきひはししるをさても物もの志しを東あづま園えん  
 抽 ちたわの花はなのりる地ちとひける信

撰茨水 四角考

兵水 正ただの南みなみり所ところ始はじめははるる小こままとと舞ま舞ま  
 南正 志しううアアと東あづまははるる子このの藤ふじ類るい  
 何丸 よからうの形かたちの指ゆびのひひ送おくうう後のち  
 馬笑 ころまよの虫むしのままとと月つきのの唇くちびる  
 一刀 ちたたくくはは世よのの後のちのの海うみ女め屋や  
 花笑 ぬやうは笑わらふははるるままのの花はなひひやや  
 耳二 けりまをささかかららややうういいぬぬ世よかかく  
 一洗 ちたたくくははままもものの世よかかくくやや  
 米卷 九くををひひははるる悟しひひかかららうう流ながややててる  
 一官 志しううアアと東あづまははるる子このの藤ふじ類るい  
 鬼丸 ちたたくくははままもものの世よかかくくやや

和郡山里柳考

おやうの車のお後しんごのとも 西翁

よわらうの細このあまのまのまのまのま

うたやの意い猫ねこの事こと尼にの家いえ 音九

元もとのもとは 大おほは 画えのえは 上かみは 山やま

全ぜん 多おほきで 後ご村むらの 立たて 一ひと升しやう

けりうけりうの 鹿しか目めを 火かの 意い 西せい翁う

元もとのもとは 家いえへ 入いれ 根ねを 人ひと 一ひと官くわん

うたやの 丁ていの 着きる 下した女によ 車くるま端はた

全ぜん ことらことらは 産うまの 柳やなぎ 志し賀が

元もとのもとは 入いれ 鼻はなを 黄わう安あんの 女によ 永えい永えい

油あぶらの 紋もんを 泥どろを 毛けの 柳やなぎ 一ひと官くわん

撰高槻梅枝考

おつうおつうの 今いまの 今いまの 今いまの 今いまの 柳やなぎ 木き

おやうの 治ちの 氏うぢの 破やぶれを 是こゝ 声こゑ 一ひと

全ぜん 今いまの 柳やなぎ の 今いまの 今いまの 可か 笑わら

うたやの 意いの 意いの 意いの 意いの 里さと 柳やなぎ

うたやの 意いの 意いの 意いの 意いの 柳やなぎ 木き

おつうおつうの 意いの 意いの 意いの 意いの 永えい 永えい

全ぜん 柳やなぎ の 意いの 意いの 意いの 意いの 快かい 風ふう

おやうの 意いの 意いの 意いの 意いの 霞かすみ 山やま

うたやの 意いの 意いの 意いの 意いの 石いし 馬うま

全ぜん 柳やなぎ の 意いの 意いの 意いの 意いの 音ね 丸まる

おつうおつうの 意いの 意いの 意いの 意いの 東とう 冥めい

東冥

撮高槻袴衣考

とたもの添乳と都と海とえ 粟本丸  
ちうい運入る門をいぬる 露丹  
つゝいくさ川介の海しぐさ 都石  
は茅をを穂の上うらねん 一未  
別イテくさ尾もぬ雷改怯 馬笑  
ふれくは降葉汲妻官はあり 茂六  
全 終子と乳もぬくちき 石馬  
つゝいそく一日いほり結の雪 生山  
全 忠と表をと行ささ身 久花  
つゝそよふい合の候は付あふく 松永  
ゆきとく 舞の舞もい合乳母 奇壽

和郡山 春好考

別イテ、さ尾もぬく雷改怯 馬笑  
うたやの海をいぬる女身 眠吏  
乳をいぬる娘をいぬる 一官  
つゝそよふい合に身背ひく 車端  
全 萬石とちうさ出吉人 奇十  
つゝい高り子の海をいぬる 文卷  
出さうい小夜よあふり 純の終 西首  
つゝそよふい舞子にぬる 屋部を  
つゝいそくちうさうにぬる 佐良り 道士  
つゝたやの茶や坊とをいぬる 壺子 鬼丸  
つゝ結くは名のかい合と干甚る 翠柳

和部山一管考

けりしを大の急いそなる大丁てうぢ 哥十  
 元もとの反へん 切女の泣なみきりけりこら 茗遊  
 全 ちよとてあけ付あけ 金瓶  
 けりしを 足合の杭かきはけりし 快風  
 全 風呂場ふうよ祝いわてあけりし 一声  
 全 揚あをまきまをまをまをま 立たた  
 けりしを 椿つばきの枝えだをまをまをま 春好  
 けりしを 花はな合あんんちちはけりし 志賀  
 けりしを 沙さははのの大おほいい 四季九  
 けりしを 二ふたつつをまをまをま 哥十

撰富田 飛入考

けりしを 家いへののおおききをまをま 一洗  
 元もとの反へん 竹たけののおおききをまをま 蒼笑  
 けりしを 笑わらははののおおききをまをま 全  
 けりしを 舟ふねのの娘むすめをまをまをま 翠丸  
 けりしを 尾お持もちははののおおききをまをま 一刀  
 けりしを 戸とをまをまをまをま 梅枝  
 けりしを 手てをまをまをまをま 兵水  
 けりしを 馬うまをまをまをまをま 一素  
 けりしを 本もとのの経きやうをまをま 永乐  
 けりしを 親おやをまをまをまをま 何九  
 けりしを 様やうをまをまをまをま 大忠



撰富田人鍛考

おやの霞と橋とまきのき 九裸  
まはりのきまも能く 素の美 芦丸  
うたやの磯とまはは流新道 全  
まはりの流新道まはりの流 柳水  
全 子にほまはま茶と茶 車端  
おやの流新道のきまも能く 馬矢  
理へ南人形と茶と流新道 立巻  
到いてくまのきまも能く 枕 七七坊  
よからづの史のきまも能く 女と女 巻遊  
けまのきまの流新道のきまも能く 鬼丸  
油 ありてまのきまも能く 酔男

和郡山是幸考

おやの流新道のきまも能く 一洗  
まはりの流新道のきまも能く 茂六  
まはりの流新道のきまも能く 石馬  
まはりの流新道のきまも能く 可幸  
まはりの流新道のきまも能く 其山  
まはりの流新道のきまも能く 玉清  
まはりの流新道のきまも能く 快風  
まはりの流新道のきまも能く 柳柳  
まはりの流新道のきまも能く 久巻  
まはりの流新道のきまも能く 鬼丸  
油 ありてまのきまも能く 隠里 芦丸





同茨木 三木考

一 久谷  
 遊柳  
 眠吏  
 里柳  
 一刀  
 可笑  
 鬼丸  
 春好  
 石馬  
 四月  
 志賀

同茨木 渡月考

一 人形  
 永示  
 一来  
 竹丸  
 観之  
 飛入  
 関水  
 柳水  
 馬突  
 鬼丸

同所 生女考

其一 死なば 狐守く 活符の海 三蒼

よあろうの ぼやい 鳴きも 春の菊

全 下女の 志せて 我を 見 眠吏

おちた 大名の 火よ する 火史 全

利より 高り ちよ じ 火と じらる 可笑

よあろうの 友と 味あ ぶ 家 の 風 眠吏

いそよふ 女子 斗りと 春の 八世 鬼丸

全 泣く 志 栗の ない 蛇 死 文蒼

ついで 冷き する 足 の 向ふ こと 松山

死なば ば 春 後 見て 捨る じ 一洗

全 定 志 藤の 春の 捨る 也 関水

其二 同高槻 十七梅翁秀曉考

ふれ へ 小 船 の お 勤 さん 小 治 酔 男

いそよふ 春 後 の 味 と 云 へ 人 一 声

割 イ テ 反 摺 け り ち ら 幼 女 一 升

ついで ちよ じ 春 の 勤 の 身 里 柳

ふれ へ 小 船 の お 勤 さん 小 治 酔 男

あう 一 子 春 後 の 二 子 子 の 藤 教 渡 月

全 遠 へ 志 する に 味 くら 氷 茶

里 江 南 の 功 ちよ 春 の 身 返 露 州

あう 一 子 春 後 の 二 子 子 の 藤 教 渡 月

全 遠 へ 志 する に 味 くら 氷 茶

あう 一 子 春 後 の 二 子 子 の 藤 教 渡 月

全 遠 へ 志 する に 味 くら 氷 茶

油



和郡山一升考

ひさしを今井戸はめていぬかえ露 茶六  
りそよの方の山見り人宿市 奇十  
とたよの妻精出とねまに 芦丸  
ふれくま者終よりてりち 耳二  
りそよのちと行付て落まを 快風  
りはぬり狐の末止ぬとらけ 蒼遊  
ついでく乳葉ひより男たて 志賀  
全 米やの使より居ん 鳥丸  
てはぬり叩くはく長源流 松山  
乳葉ひはしを塚くやん根をすん 一管  
油 ねやうんち茶葉出たがと輪 一洗

揚富田 我遊考

よからうの鏡は透す人合の日 鬼九  
別イテ、冬雪の子と花をぬき 立蒼  
いつをよみ元の本流へ戻る雲 渡月  
茶葉くよむくはまに礼とる 救医 泉山  
あまやうに葵車の出さおやく 其達  
あまひはしらまの條のまの路を 関水  
あまひはし古里の春よまま天吏 一洗  
ひさしをよみおもえぬのち後家 全  
まはぬり信軍が勇む禰の山は 柳水  
乳葉ひはし乳母とてはて入り 飛入  
油 ねやうんち茶葉入る初織り 志賀





撰富田 文苑考

全 車のゆくは 西翁  
 ついで 義筆て 若くは 女 芦丸  
 子情くよ おゆの 母織物に 泉 道乐  
 空しく 顔と笑 顔画す 切 松乐  
 けりきよ けりきよ 又も 又も 人 人 概  
 御中 御中 落も 落も 喜も 喜も 丸 裸  
 到りて ても 顔と 顔と 知 知 人 概  
 元きよ 元きよ 町よ 藤て 町よ 藤て 松 松 乐  
 松と 松と 松と 松と 松と 松と 金 瓶  
 全 松と 松と 松と 松と 松と 松と 里 東

河堀溝 永楽考

全 馬笑  
 元きよ 元きよ 元きよ 元きよ 元きよ 元きよ 行 丸  
 里に 南り 祇の 来や 此を け 戸 丸  
 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 卷 遊  
 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 柳 木  
 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 卷 笑  
 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 馬 笑  
 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 柳 木  
 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 渡 月  
 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 油  
 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 中よ 七 十

追加

紫のそととくばく雪在部 春六  
 咲松と一風流の心向う形 東志  
 春のそととくばく雪在部 子友  
 咲松と一風流の心向う形 鳥丸  
 梅咲く見凄き影あうる雪 露州  
 百子色えつる声る心向う形 其達  
 春のそととくばく雪在部 希蝶  
 咲松と一風流の心向う形 止孝

前句手鑑

前句と歌のまはるは集まは  
 方寺社寺の年の為の歌  
 万大寺の歌の吟大寺

前句の題選

法皇大寺の歌の吟大寺  
 法皇大寺の歌の吟大寺

前句の題志

法皇大寺の歌の吟大寺  
 法皇大寺の歌の吟大寺

同大全

法皇大寺の歌の吟大寺  
 法皇大寺の歌の吟大寺

前句の題詠

法皇大寺の歌の吟大寺  
 法皇大寺の歌の吟大寺

前句の題選

法皇大寺の歌の吟大寺  
 法皇大寺の歌の吟大寺

前句の題選

法皇大寺の歌の吟大寺  
 法皇大寺の歌の吟大寺

前句の題選

法皇大寺の歌の吟大寺  
 法皇大寺の歌の吟大寺



折句新題集

徳園大司教句集  
折句新題集

折句武大成

此書は折句の大成  
折句の大成

折句道志

折句道志

折句繁

折句繁

新折句大全

新折句大全

新撰折句箱

古人今人秀吟  
大寄新版

附場早義用

場五巻  
新版

同書之抄集一冊

同後編 一冊

同鼻之抄一冊

同油みかき一冊

笠附青少之書

天明年中  
秀吟大寄

笠附若木賊

寛政年中  
秀吟大寄

笠附新木賊

寛政年中  
秀吟大寄

同 後編

寛政之末  
秀吟大寄

笠附小紫垣

享和文藝  
秀吟大寄

冠附虫目鏡

文化年中大寄  
笠附傳投入

附笠三國力出狗

文政二新版  
評者点取

文政二己卯年七月

浪谷書院 高橋平助梓

大阪公海橋南文宝高軒

